

意義を高調し、ことに「粘土細工は幼児の最も喜ぶもの故に之を廃するを憾む。フレーベルも己が思を形に表はさしむるを得るに最適当なるものといえり」云々と反対論を述べ、結局この問題は重大にして幼児との関係最も深いこと故、今しばらく研究を重ね次会の問題とすることに決した。

その他「幼児の机は如何なる方法に配するを最適当とするや」「幼稚園をして全国に普及らしむる方法如何」「本会事業として毎年二回保育雑誌を発行するの件」「家庭と幼稚園との連絡方法如何」「室の狹隘に且遊歩場等の不完全なる都市の幼稚園において幼児を保育するに適良の興味を与うる良法なきや」「保姆に年功加俸退隠料を給与するの得失」などについてそれぞれ各市保育会の代表提案ならびに活発な意見交換が行なわれた。

第二日の演説には東京女高師幼稚園主事大久保介寿を予定し依頼してあったが当日都合で出席できなかったため、東京高師助教諭鈴木米次郎、京都府尋常中学校長本莊太一郎、同師範学校長清水誠吾の三人がそれぞれ幼児唱歌及び発声法の留意点、幼稚園教育のねらい、保姆の心得などについて演説を行なった。

このような内容をもって三市連合保育会は

発足したが、以来毎年一、二回の大会をもち保育会雑誌を発行しつづけ、近畿岡山の保育会をも合併し関西聯合保育会と改称して発展し、関西の幼児保育を最も隆盛ならしめる基を形成したのである。

○発足当時の会員数は、神戸保母会十五名、京都市保育会八十六名、大阪市特別会員百二十九名普通会員百五十三名計三百八十三名であった。

（水野浩志）

〔註〕

- (1) 京阪神保育会雑誌（創刊号）第一号（明31・7）五十五頁
- (2) 初等教育（初等教育研究会編）第一号（明28・10）百三頁
- (3) 同前掲書第一号 百七頁〜百十頁
- (4) 同前掲書第二号 百二頁
- (5) 同前掲書第四号 三十一頁〜三十二頁
- (6) 同前掲書第五号 七十九頁
- (7) 京阪神保育会雑誌第一号 五十八頁〜五十九頁
- (8) 神戸保母会の三市聯合保育会より脱会した事情については前掲保育会雑誌第八号五十六頁〜六十三頁に詳説されている。

幼児の教育 第六十一卷第十一号

十一月号 © 定価六〇円

昭和三十七年十月二十五日印刷

昭和三十七年十一月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。